

10-30代の3割は「歩きスマホを行い、他人の歩きスマホが気にならない」

～シニア層は歩きスマホに対し嫌悪感「年代」を軸に歩きスマホを考える～

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所

目次

調査結果1 : 自身の歩きスマホ実施有無・他人の歩きスマホをどう思うか

調査結果2 : 結果1を元にグループ化し、年代構成比で分析

■ 調査結果

1ー 半数が歩きスマホを行う 3人に2人は他人の歩きスマホが気になる

スマートフォンを所有している人(4,422サンプル)に、歩きスマホを行っているか、聞いたところ、状況に迫られて仕方なく行う人も含めると、約半数が行っていた。それに対し、他人の歩きスマホが気になると答えた人は、約3人に2人であった。

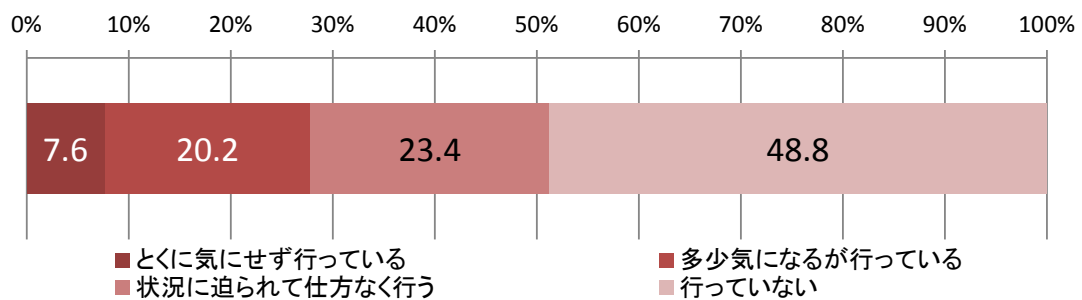


図1 自身は歩きスマホを行っているか

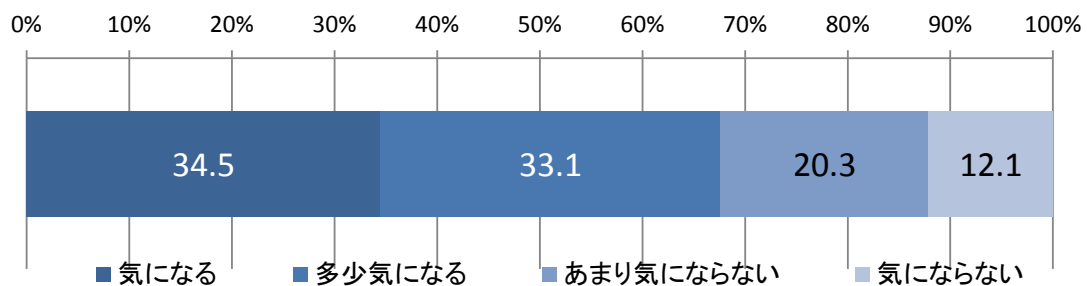


図2 他人の歩きスマホは気になるか

2ー 歩きスマホをし、他人の歩きスマホをも気にならない人は2割

上記の結果を元にクロス集計を行ない、図の3の通り、4つのグループに分けた。自身は行い、他人は気にならない「お互い様」が2割存在する、一方、自身は行わないが、他人は気になる「嫌悪感」も3割強存在した。

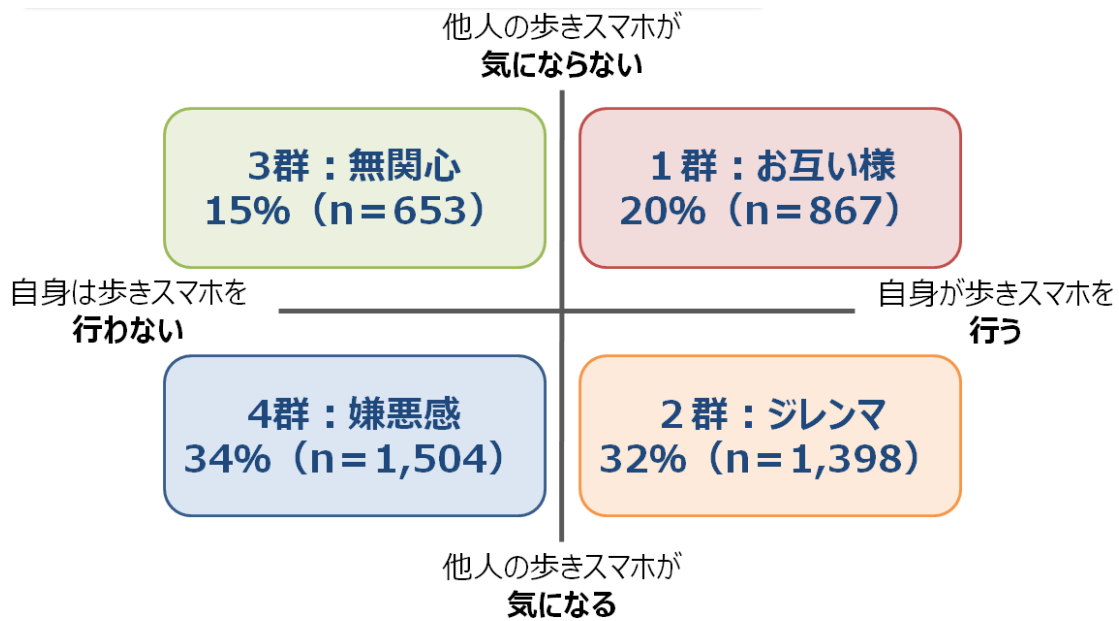


図3 歩きスマホに対する態度によるグループ分け

3—10—30代は「お互い様・ジレンマ」層が多い シニア層ほど「嫌悪感」が多い

さらに4つに分けたグループと、年齢を合わせて見る。10-30代は「お互い様」が3割程度存在する。この層は、歩きスマホが既に気にせず行っているかもしれない。対し、「嫌悪感」はシニア層ほど高い。歩きスマホを行わないだけでなく、歩きスマホが目についていそうだ。

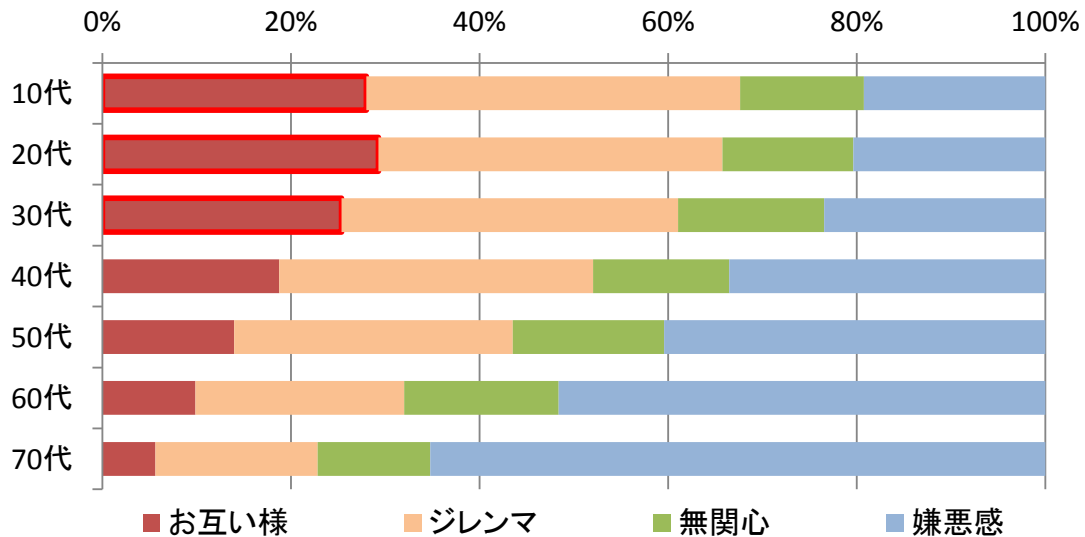


図4 歩きスマホに対する態度によるグループ分 (年代別)

歩きスマホは、人との接触や転倒など、自身だけでなく、他人に迷惑をかけ、社会問題でもある。種々の啓蒙活動がされており、注目はされているが、今回の調査結果より、そ

もそも歩きスマホに違和感を感じていない層も存在していた。また、感じ方は「年代」によっても大きな差が見られた。

スマートフォンが普及が 7 割を超えた今、今一度「歩きスマホ」について、当調査結果を元に、考えてみてはどうだろうか。

■スマートフォンのマナーリーフレット

当調査結果を反映したリーフレットを公開しています。ご活用ください。

http://www.moba-ken.jp/safety_guide/index.html#04

■その他

当調査結果は、2018 年 9 月 6 日（木）に開催された第 46 回日本行動計量学会にて、報告しています。http://bsj.wdc-jp.com/2018/common/doc/program_confirmed.pdf

■調査概要（調査名 スマホのマナー・セキュリティ調査 web 調査）

調査時期 : 2018 年 3 月 調査対象 : 全国、15～79 歳男女

標本抽出法 : QUOTA SAMPLING 性別・年齢・都道府県で割付 6,000 サンプル回収

■問い合わせ先

詳細なデータ、質問項目など、ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社 NTT ドコモ モバイル社会研究所 msri-inq-ml@nttdocomo.com 03-5156-1087